

2018年10月19日
杏林大学医学部附属病院
ボランティア委員会

2018年8月20日（月）～24日（金）に、当院での「夏!体験ボランティア」に参加を希望した高校生4名を受け入れました。当院ボランティア委員会の委員の指導を受けながら、外来棟1階での来院者の案内誘導、自動再来受付機の操作補助、エレベーターの安全な開閉補助などを中心に、病院でのボランティア活動を体験して頂きました。

ボランティア活動に参加された皆様から寄せられた感想文（抜粋）をご紹介します。

[高校1年生、女子]

3日間のボランティアを通して、最後には、大きな声で挨拶をするだけでなく、質問された内容のほとんどに、自分で対応することができるようになりました。笑顔の患者さんに大きな声で「ありがとう!」と言われた時は本当に嬉しかったです。

私にとってとても充実した3日間でした。参加してみて、初めての体験のことばかりでしたが、どれもやりがいがあって、ためになりました。

[高校1年生、男子]

ボランティア参加のきっかけは、病院が私が通っている学校に隣接しているからというとても単純な理由からでした。

しかし、いざ体験してみると自分がいかに知らないことばかりだったかということを知る貴重な体験になりました。

ご高齢の方の中には機械の前まで歩くのが一仕事であったり、診察券を機械に入れる間、ご自身の体を支えるのが大変であったりする方など、普段の学校生活の中ではあまり考えたことがなかった光景を目にしました。

また、自動再来機の方へ歩いて来られるおばあさんの姿が遠くから見えていたので挨拶をしましたが、相手側には聞こえなかったようでした。適切なタイミングでの声掛けが良いことが分かりました。また、私のように身長がある場合は、前かがみの患者さんには目線の高さまで自分が低くならないと相手に負担をかけてしまうことも分かりました。高齢の方々への程よい気配りと接し方を学びました。

「やってみなければ気づかないこと」をたくさん知る機会になりました。

[高校1年生、女子]

3日間のボランティア体験を終えて、「おはようございます」という言葉は、魔法の言葉なのだと、改めて気づくことができました。病院のドアから入ってきた患者さんに挨拶をすることで、患者さんの表情に笑顔の花を咲かせることができたからです。明るい気持ちをもって、笑顔で挨拶することを心掛けたことで、相手に柔らかな印象を持ってもらうことができ、明るい気持ちになってもらったのではないかと思います。

体験ボランティアを通して学んだ多くのことは、杏林大学病院だから学べたのであり、ここでしか学ぶことができないのだと思います。中でも、挨拶の面においては、特に日常生活にも当てはまり、通じることであると思います。

今回の活動で吸収したことを、これからの人生に活かしていきたいと考えています。貴重な体験をありがとうございました。

[高校1年生、女子]

私が3日間を通して気付いたことは、エレベーターや自動再来機の前に立っただけでも、自分にできることが沢山あったということです。

また、ボランティアをして、一番人が並んでいるなと思った場所は会計計算窓口でした。病院では医師だけでなく周りの医療関係の人も忙しく働いているということがよくわかりました。自分にとってもいい社会勉強になったと思います。少しでも病院内の雰囲気明るくなるようにと笑顔で元気よく挨拶をしたことで最初はなかなか相手に届かなかった声も届くようになりました。

私自身地域の方々に貢献することが出来て良かったなと思います。

[指導担当者からのコメント]

3日間という短い期間で病院のシステムや配置を覚えて、案内をするのは大変だったと思いますが、1日目より2日目、3日目とだんだん自信を持ってご案内できていました。

患者さんと接することで、たくさんの事を経験されたと思います。ほんの少しの思いやりがもたらすものを忘れずに、これからも頑張ってください。

[指導担当者からのコメント]

明るく元気な皆さんの挨拶や優しい対応に、患者さんも元気をもらえたように思います。実際に患者さんと話をしたことで「患者さんとの視線の合わせ方」「声の大きさ」などに気づけたこと、学べたことがたくさんあったと思います。この体験が今後活かされると思います。これからの皆さんの頑張りを応援しています。

今回の体験ボランティアに参加された皆さんの、今後のご活躍を心より祈念いたします。